

昭和十二年六月

會

報

IV

地理學談話會

一談話會報告

昭和十一年二月十一日

朝鮮の火田に就て

越中の書業に就て

函ノ島に就て

伯耆大山に就て

以上卒業論文報告、尚函ノ島は備中尾ノ道對岸の一小島

昭和十二年五月廿日

見島雜覽

地理學史綱要

伊吹山の猿蓑に就て

尚見島は秋布沖運かり日本海の一小島なり

六月廿七日

深山盆地の交通變遷

西 登

村井 敏衛

村上 次男

水村 龍治

以上卒業論文報告、尚函ノ島は備中尾ノ道對岸の一小島

衣川 芳太郎

室賀 信夫

田中 承作

尚見島は秋布沖運かり日本海の一小島なり

中江 健

本邦内地の石炭運輸の概観

山口平四郎

人口地圖に就いて

藏田武雄

十一月廿三日 第四回地理學談話會大會

開會の辞

廣島附近の動いた石炭時代貝塚に就いて

神尾 明正

フムホルト——アメリカ旅行以前

野間 三郎

中部日本の焼畑に就いて（報告提出）

木村 憲治

九州睡塔と對馬貿易

山口平四郎

人口地圖に就いて（第二報）

藏田武雄

福州と琉球館

米倉 二郎

家業の構造に及ぼす露の影響

島 之夫

古事記に現はれたる地理的名辭

藏本 貞一

久米成海沿岸の古地理

小牧 実繁

金島、銀島及びブルーレス地名の源流

藏田 元孫

江越間の旧交通路と東巻の變遷

田中 秀作

上海港の今昔

中野竹四郎

明會の緯

十二月十九日

地理學論の諸要件

杉村正治郎

東域の土地と風水説

木村龜治

再びチモール島の孤島國に就て

菊田水郎

南村村氏の演題は卒業論文の一節

昭和十二年一月廿九日

高田平野の人口地理學的研究

中江 俊

生駒山脈西斜面に於る水泉の地理學的研究

和田俊二

アマリカのパイロット・チャートに就きて

小野 誠二

尚中江、和田両氏は卒業論文報告

二月十日

水郷と江間

伊藤 壽

白水・アルプスの高地聚落

衣川芳太郎

高平藤氏の演題のフィールドは利根川尻十二島附近

利根川氏は卒業論文報告

第四回地理學談話會大會 十一月廿三日

午前十時開會、定刻既に會場史學科第一教室は學内外の聴衆を以て埋められ、その數概算六十名、演題は別項の如く中野・田中・藤田・小牧・諸先輩も夫々その演題の一端を述べ、時間の制限を遙かに超過して再三の警告に漸く降壇する者も亦一二に止らず遂に定刻を超へて十二時半新しく開會を假して、會場を環繞する史研究會に明瞭すを得た、極めて盛會、石橋先生を始め幸田高松、高松敏孝、佐々木の大先輩も聽衆に伍され一極と辯論の活氣を促さる、談話會後、藏列館正面にて記念撮影、午後一時半より樂友會館にて午餐會を催す、席上石橋先生は此時所感と冒頭して長時間の御講話を賜り、午四時散會を告り會者一同の自己紹介ありたり。

當日大會出席者名簿に記入されたる數名次の如し。

小牧良繁、藤田元泰、中村良之助、藤田武雄、渡辺茂藏、松井武敏、廣瀬幸徳、佐伯英二、楊文

壽、村井敏衛、山崎修、秋田孝夫、藤賀徳夫、島三夫、田中啓作、黒島烈、中森増三、西村雅男、並河由則、中江健、伊藤壽、三品彰英、吉田敬市、田中博、鈴木福一、渡辺久雄、辻田右生男、銅永陽二郎、李彰、今井卓三、淺井辰郎、杉村正治郎、野間三郎、和田俊二、林隆、内藤玄臣、藤子俊一、松利梅造、長谷部健史、米倉二郎——その他一般地理愛好者の氏名を略す。前記以外の方書日出版者の正なるものを挙ぐれば次の如し。
石橋五郎、井田貞次、勝田圭造（以上順序不明、敬称省略並びに書名係誤謬中の島脱漏多きと雖るも御寛容ありたし）

二、教室行事

○昭和十一年要綱義題曰

普通講義 小牧助教 地理學通論（第一部）

中村（新）教授 地理學通論（第二部）

特殊講義 小牧助教 沿岸の地理學的研究

小野講師 地圖學

田中講師 國民地理學及び滿蒙地理

廣 蜀 小牧助教 内外地誌實習

真 習 小牧助教 地理學實習

鶴 嶺 小野講師 ドイツ地理書講義

○昭和十一年大學院入學者研究題目

聚落地理學 庄司天孝

水邦都市地理研究 長谷部健史

○卒業生論文題目（昭和十二年三月卒業）

三田生四氏は左の如き題目の下に論文を提出され希りなく卒業せる。

衣川芳太郎 日本アルプスに於ける新地聚落——特に一〇〇〇米以上

杉村正治郎 エラトステネスの地理學

中 江 健 高知平野の地理學的研究——特に人口を中心として

和田俊二 生駒山脈西斜面に於ける水車の地理學的研究

○昭和十二年模範義題目

普通講義

中村教授 地理學通論（第一部）
小牧助教 地理學通論（第二部）

特殊講師

小牧助教	地と人
小野講師	地国學
室賀講師	日本地質書解題
森講師	支那歴史地理研究法

演習

小牧助教	地理學の諸問題
------	---------

実習

小牧助教	地理學実習
------	-------

講義

小野講師	ドイツ地理書講義
室賀講師	フランス地理書講義

○新講師

本學は四中講師終せられ、そのあとを室賀徳次郎が新に講師として特殊講師及び佛蘭西語講義を擔任されることになった。

昭和十一年度

二回生歓迎會

五月二日地理學専攻二回生九名の歓迎會を演習室に於て開催す。此回午後

研究車出發、吾等二班に分れ晴道までハイキングを行ふ。二班に分れて、心に任せて足に任せて午後五時すやに前橋して暮合ひ、一時の積飲迎會の席に着く。自己紹介、飲談に時の過ぐるを知らず、たゞ夜の更くる早きを恨みつゝ、午後九時半蓋會裡に解散。

春季二回生見學旅行

五月廿七日、早朝京都駅發——先生方は朝町見學、學生は犬山へ、英濃水田で暮合ひ、富山に向ひ、町見物、自動車にて中ヶ瀬へ（一泊）

廿八日、野麥街道を辿り、野麥峠を越へ川南にて一泊

廿九日、暮合處よりバス、電車にて松本に到り、此處にて場、李、西島に暮合ひ、松本城へ、次いで片倉製煉見學、後、湯田温泉に越ふ、松本より大町まで電車、次いで自動車にて水崎湖に到り湖畔に宿す

廿日、水崎水産試験所見學、汽車、自動車にて茶臼川に着く解散（午後三時頃）

秋季二回生見學旅行

一行小牧助教、米倉助平と伊藤並河、西村、佐伯、十月四日、夜汽車出帆（山水丸）。翌早朝小松島着、磯島、川田の土城、池田を見學、大湊港、小湊港は汽車より見學。夕方高知着、夜市内見學旭新投宿、翌日午前中に高知城、南戸海、桂成見學午後龍岡順見學、翌七日朝汽車にて函佐川に至りそれより省營バスにて一宮、松山へ、道後松山市見學などや旅館投宿、翌八日朝一應解散、小牧先生、西村、並河、佐伯は新居浜を見學。

卒業生豫餞會

昭和十二年二月十日午後談話會あり、歸つて午後六時より坂園、島崎嬢にて卒業生豫餞會開かる。出席者二十六名、田中、藤田、小牧諸先生には御多忙中を御出席、大々卒業者に應せり方針を賜る。午後九時半散會を以て應會禮に會を閉つ、

米倉助平送別會

地理學研究助平米倉二郎氏は和歌山高專商業學校へ榮轉さる。昭和十二年正月十二日（金）四條河原町下ル桃園亭にてその送別會を催す。此日二十名餘に

上る出席者あり盛會。田中鐵師の發案指名により山口氏の吟詩に始まる紀義而出。聚つるを知らざりしも終に開會。

當日出席者次の如し。

田中秀作、小牧武繁、磯田武雄、渡辺茂義、辻田右左衛、松井武敏、室賀信夫、安藤謙一、植
嶺忠、朝永陽二郎、山口平四郎、高田敏市、水村憲治、野間三郎、長谷部健史、及び三四
名二回生。

昭和十二年度

日本地理學會

四月三、四の両日、日本地理學會・日本岩石礦物礦床學會・日本火山學會・地球
學圖の聯合講演會が工學部に於て開かる。第三部講演に出演の談話會員諸氏及
びその演題次の如し。

四月三日

田中秀作　滿蒙鐵路の植民地理的意義
工友國五郎　元史聚落に就いて

村松繁樹

「松前通廣り暖泉島新観補註」について

藤内芳彦

アラビヤの旅行者と商人に就て

四月四日

吉田敬市

京都市近郊の確望と地割

神尾明正

歴史時代に入つて起つた最後の大正公地形変化の野外資料とその
の先史地理學的意義

島之夫

大坂市の特殊景観——特に河原町に就いて

当五口は小牧助教、織田武雄、吉田敬市三氏の案内にてエスカレーション

行はる。御所・二條・丸物・桃山・宇治・山崎・西陣をめぐる趣がしいコースで

當日天候不穏なりしも参加者一同の満足感に敬謝。

二回生歓迎會

四月二十六日（月）午後六時より駒橋にて地理學専攻二回生五名の歓迎會を開催す。出席者十六名。自己紹介の後、小牧先生より御挨拶あり。此日敬市外より御多忙中を藤田、渡辺両氏出席する。午後九時半解散。

三、會員消息

前号及會員名簿（十一年九月）以後會員の變動は次の如くである。轉居は名簿によつて御承知下され度し。

小野 鉄二 廣島高師教授

入江 久夫 滿鉄經濟調查會第五部 國民班

松本 博 宮崎縣立延岡中學校長

松下 清雄 山口縣女子師範學校

水田 喜久雄 滿鉄産業部東京出張所

米倉 二郎 和歌山高商

海老原 若三郎 神奈川縣立葉野中學校 教諭

別紙 高彦 大阪商大高商部 教授

岩尾 常春 山台陸軍幼年學校 教官 當分は廣島にて服務する

東 賀 信夫 京大文學部 講師

國領 武一郎 鐘紡淀川工場

朝永陽二郎

同志社女專講師・大谷中華第

御子榮幸一

近衛野誠重砲第八聯隊隊隊長、同志社大學理科講師及同中學

教諭に在る。

村本達郎

山形縣立山形中學校教諭

野間三郎

京大、文、助手

長谷部健史

大阪府立國芸學校教諭

衣川芳太郎

長野縣立飯田高女教諭

中江健

大阪府立高津夜間中學教諭

和田俊二

京大、文、助手

○尚 聖賢新講師及安藤鑑一氏は教志の爲當分東京に於て御尋養中。御快癒を祈る

○石橋先生は近來愈々御健勝にして、朝日新聞社編の世界現勢地圖（重政發行記念）を監修され、更に又地圖の作り方と観方について大阪中央放電局より講演を試みられた也。榮録を去って蒙覽に現されてゐるのは會員一同のお喜び

申上る所である。

○堀見正三君は夏期休暇中歸郷して病を養つて居られました。昭和十一年九月（當時同居は三回生）病策り遂に死去されました。教員にては有志一同惜念して各料を供へました。

四、雜報

○京都帝國大學文學部地理學研究報告 第一冊

右は文學部の補助を得て本年四月第一冊を出す運びとなり、論叢と相違んで水取聖の業績を、世に問ふことゝなりました。補助金を仰ぐ關係上、文學部在籍者以外の論稿を掲載し得ぬのは誠に遺憾であります。將來一層好都合な形式に發展さすべく考慮してをります。成否は一に該協會員諸氏より御支援に候たねばなりません。御購入及御勧誘をお願ひ申してをさます。

○論叢第九種豫告

論叢も既に編を重ぬること八、今第九種出版の準備中であり、内容は昭

和十一年度卒業諸氏の論文を以て讀たされる感症であります。御卒業に備はる内容と編輯である故に従来その發行が極めて少く、出學者も讀覧を示してをりますので、幾分体裁を更のこゝ面度ばかり嫌子を見ることになつてをります。會員諸氏の御援助によつて経費機關を背て、行なたいと存じてをります。

尚時業について御意見御希望をお送りし願へれば、及ぶ限り改善もはかりたいと存じてをります。

○談話會よりのお願ひ

教室にては支那なき限り毎月一回談話會を催ほしてをります。が、後輩の指導、頼道の爲に、各位の御出席時に御出席を切にお願ひします。その御出席後輩、喜を以て御出席の可否をお問ひせねばなりません。が、通信費の重く少く、故に手なから、こゝにお願ひするのみとします。題目及び都合よき時日をお送り下さればそれによつて談話會のプランを編成致したいと存じます。特にお参みをお願ひします。

前往所その他御運動の節はお手紙ながら研究更めて御通知を賜りたく存じます。

水産部會報は種々の手摺りの爲纏めて遺囑なものとになりましたが、
爾後手摺らなさを期してをります。幸に御意趣御希冀もお境し續へ
れば結構に存じます。

京師市丸水町通野神社裏入

印刷所

甲

文

集

電話上五〇二番